

再推薦にむけた推薦書の修正について

登録の価値(第2章・第3章)

該当するクライテリアを(x)生物多様性に絞り、登録の価値を証明する構成を整理
生物相等の記述の中に、各推薦地の特徴を記述し、各構成要素に含まれる価値を説明

クライテリアX(生物多様性)

推薦地は、長期の隔離を伴う大陸島としての形成史を反映した進行中の陸生生物の種分化と固有化の過程を背景に、陸生生物の固有種・亜種や国際的な絶滅危惧種のかげがえのない生息・生育地であり、生物多様性の生息域内保全にとって、極めて重要な自然の生息・生育地を包含した地域となっている。

□ 生物多様性のホットスポット(生物種の多さ)

- 陸域生物多様性ホットスポット「**ジャパン**」の中でも、最も多様で独特な生物多様性を代表。推薦地の面積は日本の国土面積の**0.5%**に満たないにもかかわらず、日本の動植物種数に対して極めて大きな割合を占める種が生息している。

□ 絶滅危惧種の多さ／固有種、固有種率の高さ

- IUCNレッドリストに掲載されている**絶滅危惧種が95種も含まれ、10種以上がCR、75種は中琉球・南琉球の固有種**となっている。
- 推薦地の陸生哺乳類(62%)、陸生爬虫類(64%)、両生類(86%)など**固有種率が高い**。
- 特に陸生脊椎動物は、日本の種の57%(739種)が生息し、日本における固有種の44%(71種)、地球規模の絶滅危惧種の36%(49種)が含まれる。

□ 背景となる大陸島の地史

- 大陸からの隔離等の歴史**、過去の気候変動の歴史、亜熱帯の気候条件、黒潮や渡鳥等による多様な分散の歴史、**生物地理区の移行地帯**という地理的配置

推薦地の範囲(第1章・第3章・第5章)

○推薦区域

- 可能な限り、構成要素に挟まれた緩衝地帯を推薦区域に編入することで、構成要素の連続性を確保する。
- 土地利用状況を踏まえ連結ができない場合や生態学的な持続可能性を考慮した連結が難しい場合は、分断された小規模な構成要素を除外する。

- 奄美群島国立公園の特別保護地区又は第1種特別地域
- 奄美群島森林生態系保護地域の保存地区
- なお、一部、国立公園第2種特別地域や森林生態系保護地域の保全利用地区が含まれるが、今後、国立公園の第1種特別地域への格上げに向けて法令に基づく所定の手続きを進める。

○緩衝地帯

- 緩衝地帯の境界の一部は不適切という指摘があることから、その機能を十分に果たせるよう、歪な境界については見直しを行う。

- 国立公園の第2種特別地域
- 森林生態系保護地域保全利用地区
- なお、一部に
 - 推薦区域に結合していない国立公園の特別保護地区又は第1種特別地域
 - 推薦区域に隣接する国有林又は国立公園の第3種特別地域であり、かつ生物多様性に配慮した森林管理及び森林施業を行うことが合意されている区域
 - 推薦区域に挟まれた国立公園の普通地域であり、かつ外来種対策等の保全活動を重点的に行っていく区域が含まれる。

詳細は資料1-3にて説明します

保護管理(第4章・第5章)

○外来種対策

- 「奄美大島における生態系保全のためのノネコ管理計画」の策定と実施
- 鹿児島県において外来種に関わる条例が策定中
- 推薦地における侵入状況の監視と初期防除（ライン調査による監視、国が作成する生態系被害防止外来種リスト等の優先的に防除すべき種の選定）
- マングース以外の外来種（シロアゴガエルやヒアリ等）対策
- 普及啓発

○希少種対策

- 各地域でのパトロールの取組や関係機関の協力体制（特に警察との連携）
- 奄美大島、徳之島、西表島における林道等のゲート設置
- 各県、市町村の各条例の制定

○観光管理

- 包括的管理計画において、「適切な観光管理の実現」を加え、観光管理計画（マスタープラン）の策定、推薦地、緩衝地帯、周辺管理地域における各地域区分毎の観光利用の方針を追記
- 各地域におけるエコツーリズムの推進に関する進捗状況

○保護地域

- 北部訓練場返還地に関する国立公園の拡張、森林生態系保護地域の設定
- 緩衝地帯における様々な保護区分の組み合わせ

○管理体制

- 包括的管理計画、行動計画等の詳細内容
- 科学委員会、地域部会、地域連絡会議、各機関の役割と全体的管理、現場レベルでの日常的管理体制

モニタリング(第6章)

- 推薦地の遺産価値の保全状況や保護管理の効果を把握し、適正な管理に反映するため、主要指標を設定し、モニタリングを実施。特に、ヤンバルクイナ、アマミノクロウサギ、イリオモテヤマネコの3種は、良好な亜熱帯照葉樹林に依存し生息している種であり、森林生態系の健全性を示す主要な種として抽出。
- モニタリング結果については、定量的及び定性的な評価を行う。
- モニタリング対象地域は、推薦地、緩衝地帯、周辺管理地域等とする。
- なお、主要指標以外の補助的な指標については、今後策定を進めるモニタリング計画の策定の中で整理する。

モニタリングの視点	主要指標	対象地				内容	調査周期	調査実施・情報保 管機関
		奄美大島	徳之島	沖縄島北部	西表島			
OUVを表す主要な固有種・絶滅危惧種が維持されていること	アマミノクロウサギ ヤンバルクイナ イリオモテヤマネコ	●	●	●	●	生息分布状況	毎年、5年毎	那覇自然環境事務所 九州森林管理局 沖縄県
OUVを表す主要な固有種・絶滅危惧種への人為影響が低減/過去の影響が改善されていること	アマミノクロウサギ ヤンバルクイナ イリオモテヤマネコ	●	●	●	●	交通事故発生件数 死亡個体数	毎年	那覇自然環境事務所 沖縄県 鹿児島県
脅威となる外来種が減少していること	マンガース ネコ	●	●	●	●	CPU(相対生息密度)継続範囲 野外の生息状況 餌い草のマイクロロットアップ設置個体数・率	毎年	那覇自然環境事務所 沖縄県 鹿児島県 那覇市町村 鹿児島県

モニタリングの視点	主要指標	対象地				内容	調査周期	調査実施・情報保 管機関
		奄美大島	徳之島	沖縄島北部	西表島			
推薦地や周辺の観光利用が持続可能な方法で行われていること	観光利用者 エコツアーガイド・事業者	●	●	●	●	島別入込客数 拠点施設利用者数 国有林内のエコツアー利用者数 認定ガイド数 保全利用認定締結等事業者数【調査中】	毎年	那覇自然環境事務所 九州森林管理局 鹿児島県 那覇市町村 奄美群島広域事務組合 鹿児島県 沖縄県 関係市町村
気候変動や災害の影響またはその予兆が早期に把握されていること	推薦地の気象変化 植生や動物相の変化	●	●	●	●	気温、降水量、台風情報等の気象データ 気候変動に関する予測データ 出現種の種構成、種数・個体数等	毎年、5年毎	気象庁 環境省生物多様性センター 九州森林管理局

モニタリング計画の基本方針(附属資料として推薦書に添付)

遺産価値の保全状況を適切に把握及び評価し、順応的管理に反映させるための手順を規定

モニタリング

- ✓ OUVを表すフラグシップ的な固有種・絶滅危惧種が維持されていること
- ✓ OUVを表すフラグシップ的な固有種・絶滅危惧種への人為影響が低減/過去の影響が改善されていること
- ✓ 脅威となる外来種が減少していること
- ✓ 推薦地や周辺の観光利用が持続可能な方法で行われていること
- ✓ 気候変動や災害の影響またはその予兆が早期に把握されていること

主要指標

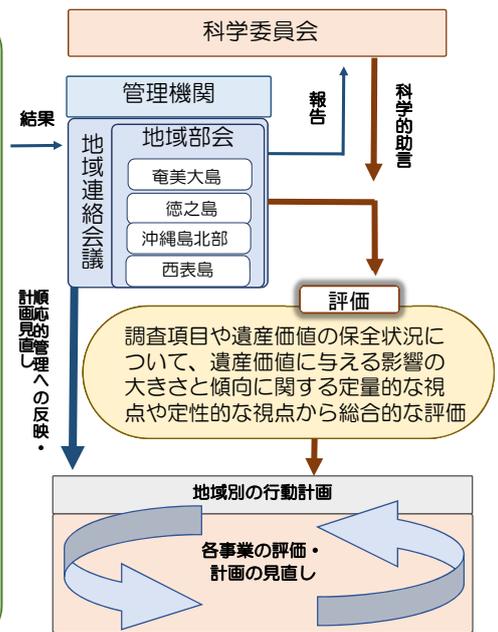
アマミノクロウサギ
ヤンバルクイナ
イリオモテヤマネコ
マンガース
ネコ
観光利用者
エコツアーガイド・事業所

推薦地の気象変化
植生や動物相の変化

+

主要指標以外の指標

遺産価値そのもの、あるいは遺産価値に大きな影響を与える恐れがあると考えられるものを対象とし、永続的な実施が見込まれるものから選定



推薦書(案)等については、下記ウェブサイトにおいて
＜第2回科学委員会資料＞として掲載中です。
<http://kyushu.env.go.jp/naha/amami-okinawa/index.html>